

EU：20世紀型統合と21世紀の現実

証券セミナー 2016.03.09. 報告：田中 素香

はじめに

○ EU の現実 (Wolfgang Muenchau, FT04.01.2016) より：

● EU 3つの divide ①南北、②ユーロスケプティクスとユーロファイル、③社会的にリベラルな西と独裁的な東。

● 2016年の特定の予想を作るのは難しい。既知の数多くのリスク：

- ①イギリス国民投票 ②難民流入 ③ギリシャのメルトダウン
- ④イタリアの半分破綻している銀行システム
- ⑤財政政策をめぐるドイツと周縁諸国の対立 ⑥ジハドテロリズムの上昇
- ⑦スペインとポルトガルの政治的不安定 ⑧フォルクスワーゲン事件

これほど多くの危機が同時に来ているのが特徴：big pictureを描く必要。

● ミュンシャウの結論「ハンガリーとポーランドの反統合、反民主主義→東方拡大はヨーロッパの分離を付け加え EU を機能不全にした。／それゆえ私は分裂や不和を廃棄さるべき脅威とは見ずに、捉えるべき機会 (opportunities) と見る。2016年に対する私の予想は、われわれはさらなる不和を見るであろうということである。私の希望はそれが賢明にマネッジされるであろう、ということである。」

○ ミュンシャウより長期を見て、少し大きな絵を描いてみたい

1. 20世紀欧州統合モデル

○ 20世紀第2次大戦後の「世界3分割」→共産圏・後進国圏は基本的に閉じていて、先進資本主義圏がアメリカ技術を導入して高度成長・福祉国家を形成

○ EEC 条約 (1957年調印) からマーストリヒト条約 (1992年調印) に至る EC／EU 基本条約は「20世紀欧州統合モデル」を体现。対米経済キャッチアップを目標とする。ホブズボームの「短い20世紀」を反映。

○ その後のアムステルダム条約、ニース条約、リスボン条約は EU 拡大など新情勢に対応するための条約だったが、基本的性格はマーストリヒト条約を超えない

○ ただし、EEC 条約 (1957年) の統合事項完成 (関税同盟と CAP：1968年) とその改正 (単一欧州議定書 SEA 1986年) の間には「統合の暗黒時代」といわれる15年があった。

「暗黒時代」は戦後国家独占資本主義に対応した EEC 条約が、新自由主義型資本主義（自由化、グローバル化）対応の SEA に飛躍するための期間であった。

○ SEA による単一市場統合は成功し、EC に経済成長を復活させ、東欧市民革命、ドイツ統一への道を拓いた。その成功がマーストリヒト条約（1991年末合意）による通貨統合を可能にした（ドイツ統一とあいまって）。

2. 21世紀初頭ヨーロッパ統合の現実

○ホブズボームの「長い19世紀」に対応させて「長い21世紀」（1992年以降）

第2次グローバル化（世界全体を市場経済に巻き込む） グローバル金融資本主義の発展

○ユーロ危機 「20世紀統合モデル」リスボン条約の破綻→「ユーロ1.0」から「ユーロ2.0」へ 「ユーロ2.0」は「20世紀統合モデル」を超える—ECB と EU の条約を超える強化が不可避だった—

○難民危機 ヨーロッパの政策担当者にとってユーロ危機に匹敵する（あるいはそれを上回る）深刻な危機。EU では西欧北欧南欧のポスト・モダンと東欧の（ニュー）モダンの対立、難民流入はプレモダン地域の西欧に対する「歴史の復讐」の側面。

○しかし、●ヨーロッパの過去10年間の労働力増加の70％は流入移民による。EU 加盟国の総体的 GDP への効果は明らかにポジティブ、●移民はネイティブの人口より若いので経済的に活動的であり、依存人口比率（dependency ratio）を引き下げている、●財政支出へのインパクトは少なくとも中立的、●現状はヨーロッパに奇貨を提供している。難民と彼らが提供する挑戦とは、平時には政治的に困難であろうようなヨーロッパにおける統合と共通移民制度化の必要なプロセスをスピードアップさせるであろう（Jacob Kirkegaard,）。

○英国離脱危機

3. 評価と展望

○ホブズボームの「短い20世紀」に対応させて「短い21世紀」の開始＝リーマン・ショック（2008年）→ポスト・モダン地域＝（ニュー）モダン地域＝プレモダン地域（近代以前、脆弱地域を含む）の世界新3分割構造とその対立関係の明確化

EU：二〇世紀型統合と二一世紀の現実

- 「短い21世紀」にリスボン条約は対応できない：ユーロ危機で明らか
- アンソニー＝ギデンズ EU 1、EU 2、紙のヨーロッパ→メルケル首相が統率する EU 2がEU を動かしている→ユーロ危機には当てはまったが、難民危機では EU 2は機能できていない
- さしあたり、ad hoc な対応とならざるを得ないが、「21世紀」に対応するには、新 EU 条約が不可欠 ポスト・ユーロ危機対応（ユーロ圏財政移転機構、ユーロ圏財務省）＋難民対応（共通の国境を守る EU 国境警備体制）を含む
- ヨーロッパの問題を解決できるのは EU だけである

EU: 20世紀型統合と21世紀の現実

証券セミナー（証券経済研究所）

2016.03.09. 15:10～16:30

田中 素香

1

構 成

- 1. 20世紀欧州統合モデル（環境・理念・発展）
- 2. 21世紀初頭ヨーロッパ統合の現実
 - ①ユーロ危機
 - ②イギリス残留問題
 - ③難民流入問題
- 3. 評価と展望

2

1. 20世紀欧州統合モデル

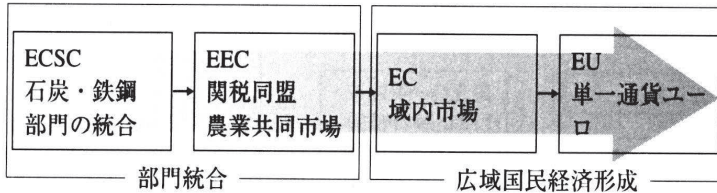
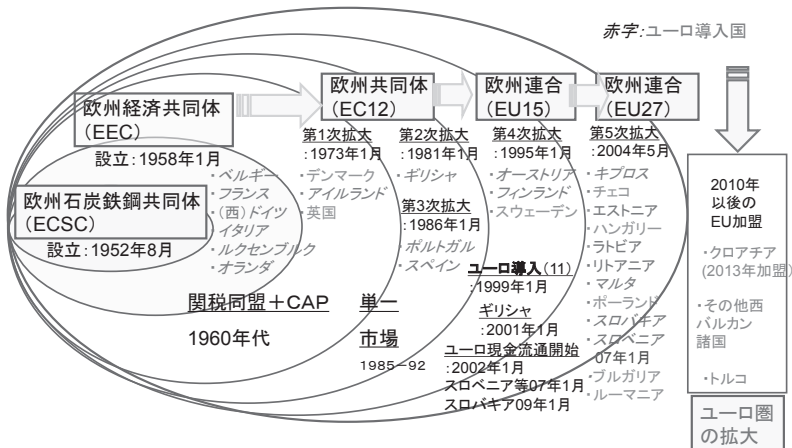


図 1 EU 経済統合深化の 2 期・4 段階 (概要)

- (1) 順調な発展: ECSC→EEC、単一域内市場→単一通貨ユーロ
- (2) 危機が統合飛躍のバネ: EECから単一市場へ(15年間の「統合の暗黒時代」を経て飛躍)

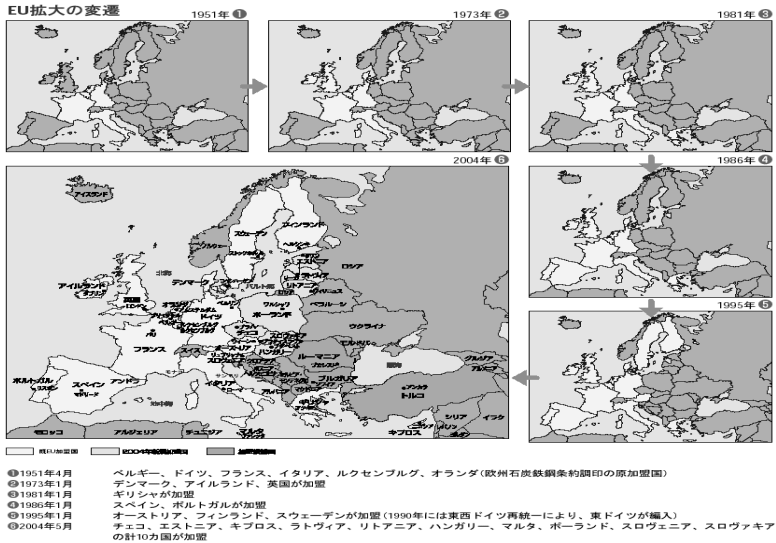
3

深化・拡大を続ける欧州



4

EU拡大の変遷



出所：駐日欧州委員会代表部”Europe” Spring 2004

5

「短い20世紀」に対応した統合モデル

英国の歴史家E. ホブズボーム

- ・ 著書『極端な時代』で提唱
- ・ 「長い19世紀と短い20世紀」
- ・ 「短い20世紀」: 1914-1991年
第1次大戦～ソ連崩壊
- ・ 20世紀: 「戦争と革命の世紀」
- ・ 短い20世紀の3つの時代:
 - ・ 1914年～1945年 破局の時代
 - ・ 1945年～1973年 黄金時代
(高度成長、福祉向上)
 - ・ 1973年～1991年 危機の時代

本報告の見方

- ・ 「20世紀欧州統合モデル」=「短い20世紀」の後の2つの時代に対応するモデル。21世紀の現実には不適合
- ・ 第2次大戦後=ソ連崩壊まで冷戦体制=「世界2分割時代」→本報告: 「世界3分割時代」
- ・ 世界3分割: 先進資本主義圏・共産圏・発展途上圏→共産圏と発展途上圏は閉じていた
- ・ →最大7億人程度の先進資本主義圏が、IMF=GATT体制の下アメリカ技術を導入して高度成長
- ・ 「20世紀欧州統合モデル」: 3分割世界の中で、「西欧の復興」=対米経済キャッチアップのためのモデル(基本的に)

6

20世紀統合モデルの目標： 対米キャッチアップ（経済）

50年代：冷戦体制下の不戦同盟

- 1950年代：仏独不戦ECSC
- 思想的文化的同一性：ポスト・モダン（反戦平和主義、ナショナリズム＝モダンの克服、国際主義）
- 与件としての冷戦体制[閉じたパンドラの箱][低開発圏は植民地独立→第3世界構築へ]
- 仏独友好条約1963年
- “ever closer union” with common institutions and policies
- 英国は大英帝国依存路線→垂直貿易型 vs 水平貿易型＝EEC

EECの理想：西欧復興／対米経済キャッチアップ

- キャッチアップ：「規模の経済」→経済統合による大市場
- 1960年代：関税同盟
- 対米国キャッチアップ
- 製造業主体の経済構造[産業資本主義]→規模の経済→関税同盟
- 統合の難しさ：国家独占資本主義[ケインズ型マクロ経済コントロール＋金融国家規制]の諸類型＝独型、仏型、伊型、英型→共同市場不可・部門統合にとどまる

7

「統合の暗黒時代」から市場統合へ

「統合暗黒時代」1970～84年

- EEC条約の統合目標完成（関税同盟＋CAP）→新条約なし→方法性喪失
- 混乱の70年代：①マクロ経済政策対立→西独単独フロート
71年5月＝第1次経済・通貨同盟計画破綻（Re-nationalization）
- ②第1次石油ショック→仏EC為替相場同盟「スネーク」離脱→「マルク圏」へ
- 1979年EMS（欧州通貨制度）成立

「暗黒時代」克服：市場統合

- 1980年代前半：EC経済成長率1%台、失業率2桁へ
- ケインズ主義崩壊（スタグフレーション）→マネタリスト政策＝マルクス型不況（大量失業で賃上げ＝インフレ抑制）→諸国新自由主義受入れ（仏左翼ミッテラン政権が単一市場唱道）
- →1985年単一市場統合合意→アメリカ型巨大単一市場形成へ（非関税障壁撤廃→「4つの自由」実現）
- 1987年単一欧州議定書（EEC条約改正）発効
- 単一市場統合成功→経済成長復活→東欧市民革命、ドイツ統一
- 91年ソ連崩壊：「20世紀」終了
- EU：市場統合から通貨統合へ→「21世紀」へ

8

1990年代：統合深化による時代対応

〔単一市場・単一通貨〕体制＝対米キャッチアップの「完成」

金融グローバル化対応

- 単一市場統合成功を受けて、「単一市場に単一通貨を」(スキオツパ報告：[1992＋EMS]→[1992＋単一通貨])
- 単一市場・単一通貨＝
- ①「規模の経済」論理では対米キャッチアップの完成
- ②グローバル化対応
- ③英国のオプトアウト

通貨統合の想定と現実

- 想定：先進国通貨同盟→EMS（西欧諸国参加）が単一通貨体制へ進む＝水平的通貨同盟
- ドイツの設計した通貨同盟は非連帯型＝先進国型
- 現実：①金融グローバル化＝1930年代型金融恐慌が再発、②垂直的通貨同盟へ（南欧諸国のユーロ加盟、次いで若干の東欧諸国の加盟）

9

EC／EUの基本条約 ―「21世紀」に対応できない―

深化関連の条約(調印／発効)

- ECSC条約(パリ条約 1951／52)
- EEC条約(ローマ条約 1957／58)→関税同盟・共通農業政策
- 単一欧州議定書(EEC条約改正 1986／87)→単一市場統合
- EU条約Ⅰ(マーストリヒト条約 1991.12合意／92調印／93発効)→通貨統合→ユーロ危機で限界露呈

拡大・その他こまごま・・・

- EU条約Ⅱ(アムステルダム条約 1997／99)「より緊密な協力」を規定
- EU条約Ⅲ(ニース条約 2001／03)
- EU憲法条約(2004／05年5月・6月仏蘭の国民投票で拒否→廃棄)
- EU条約Ⅳ(リスボン条約 07／09)→憲法条約引き継ぎ「EU権限／共有権限を明示」

10

まとめ：20世紀型統合モデル： “ever closer union”（ますます緊密化する同盟）

“ever closer union”の20世紀

- 統合深化でヨーロッパの問題を解決していく（ポスト・モダンの方法論）
- アメリカ経済（巨大市場・単一通貨）＝統合のモデル：規模の経済で「キャッチアップ可能」
- 単一市場・統一通貨へ→高成長・高福祉を実現
- ECSC6カ国からEU15カ国へ拡大
- ポスト・モダン思想は15カ国共有
- 無傷でドイツ統一（+or-？）

限界：2段階ヨーロッパ

- 単一市場統合まではすべての国が統合参加
- 通貨統合：ユーロ圏と非ユーロ圏（英国、デンマーク、スウェーデン）への「2段階ヨーロッパ」へ
- 20世紀EUにおける英国の役割：①統合前のめり→ブレイキ役、②自由貿易主義（vs仏伊ベルギー）③Gateway to Europe
- →日本にとってpositive

11

2. 21世紀初頭ヨーロッパ統合の現実

- 21世紀初頭の世界経済：統合環境①
- ○第2次グローバル化：全世界を市場経済化→脱落地帯（脆弱国家群、崩壊国家群）
- ○新しい「3分割世界」（ニューモダンの台頭：中国、ロシア、東欧諸国など）
- ○グローバル金融資本主義の支配
- ○先進諸国における格差問題
- EU：東欧諸国の加盟（ポスト・モダンvs（ニュー）モダン）

12

21世紀初頭の環境:ヨーロッパ統合

- 1. 経済・金融のグローバル化
- ○地球全体が資本主義経済に巻き込まれる(地球規模の「4つの自由」の諸問題)
- ○人の自由移動→地域紛争→移民問題・亡命／難民問題
- ○グローバル金融資本主義:ユーロ危機、不安定化
- 2. 東欧諸国のEU加盟:15カ国から28カ国へ→対立
- ○西欧・北欧諸国:ポスト・モダン
- ○東欧諸国:モダン(新興国ナショナリズム)、
- 西欧のEU支配への反発
- 3. シリア・イラクの崩壊(→難民問題激化)

13

21世紀統合のこれまでの特徴

- 「20世紀統合モデル」では21世紀の危機に対応できず→統合の性格の変容
- (1) 帝国化:①ユーロ圏における自己責任制から権限集中へ(銀行同盟など)、②EU機関の権限強化(ECB、欧州委員会の権限強化、ECJの権限拡大)
- (2) 多段階化:20世紀型の継続(イギリスの反発)に加えて、21世紀型=東欧問題の出現(難民問題、ポーランド・ハンガリー問題)
- (3) 序列化orドイツ化:欧州委員会が追随。ブリュッセル=ベルリン枢軸とそれへの反発(イタリアの「ダブル・スタンダード」批判)
- (4) ロシア要因+中国要因の顕在化

14

(1) ユーロ危機とユーロ制度改革

ユーロ危機：ユーロ制度限界

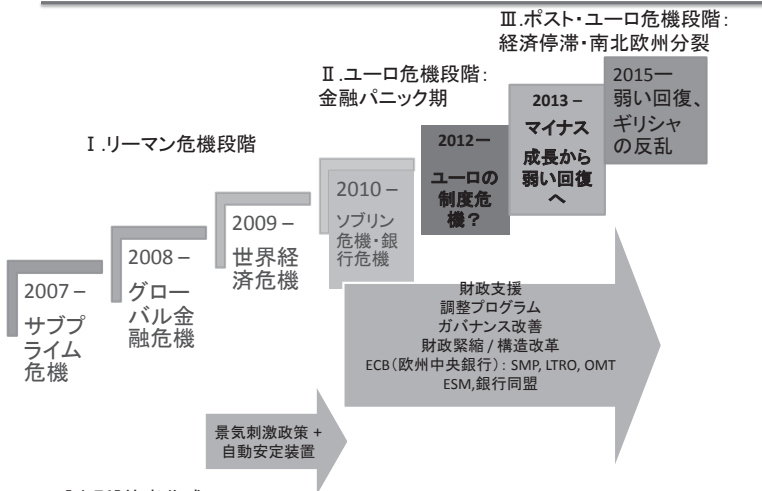
- ①ユーロ圏と欧州中央銀行制度
- ②資本移動自由
- ③危機対応は各国毎
- ①②から危機へ(西欧大銀行の南欧への過剰融資)、③では対処不可能
- ①欧州中央銀行が危機を止めた

ユーロ制度改革

- ③をユーロ圏レベルへ是正
- 危機時の財政支援機構(欧州安定メカニズムESM 2012年10月スタート)
- 銀行監督・銀行破綻処理はECB(欧州中銀)+EUが担当(2016年より)
- 危機国国債の無制限買い上げ(ECB)(2012年より)

15

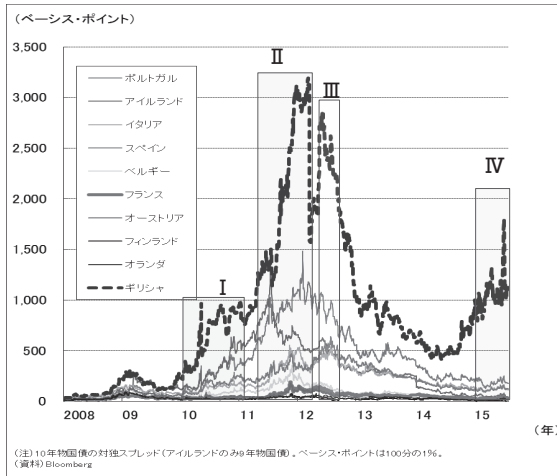
ユーロ圏：3段階にわたる危機



[出所]筆者作成。

16

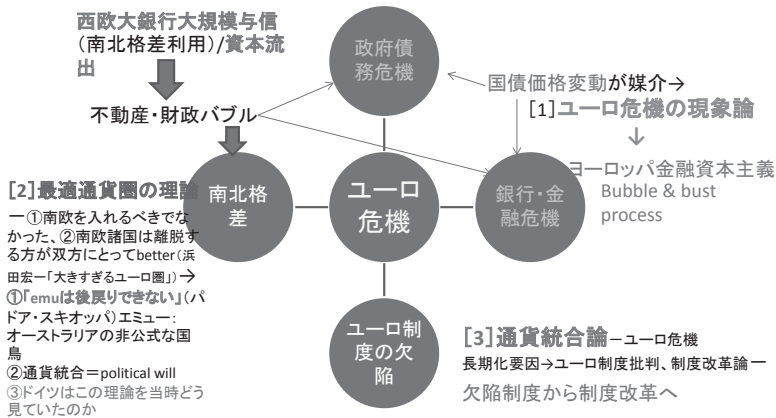
図1・1 ユーロ圏諸国の10年物国債利回りの対独スプレッド



[注]の追加。I～Ⅲはユーロ危機の3つの波。Ⅳはギリシャ反乱期。15年は7月まで。

17

ユーロ危機:「危機の四角形」と関連理論



18

「ユーロ1.0」(ユーロ危機)から「ユーロ2.0」へ —制度改革“more Europe”—

「ユーロ1.0」

- 非救済条項(125条)
- 国債直接購入禁止(第123条)
- 銀行監督:加盟国(母国監督主義)
- 銀行破綻処理:加盟国当局

「ユーロ2.0」

- ESM(12年10月スタート)
- ECBのOMT
- 銀行監督:ECB
- 銀行破綻処理:ECB+EU(欧州委員会)

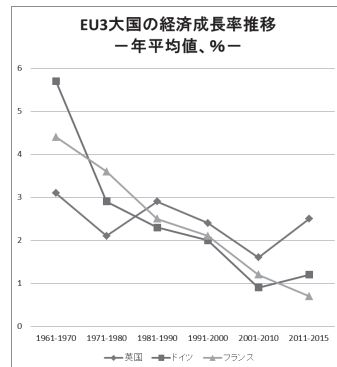
19

③イギリス残留・離脱問題

EC加盟:1973年

- 大英帝国依存路線は失敗→「英国病」→EEC加盟を望むも、仏ドゴール大統領拒否権2度行使(米国の「トロイの馬」)
- 加盟後も“EEC”あるいは“EC”と呼ばず“Common Market”と呼んだ
- 大市場(輸出市場、英国企業競争力強化)を望み、「共同体(European Community)」は関係ない

クレバーな戦略成功

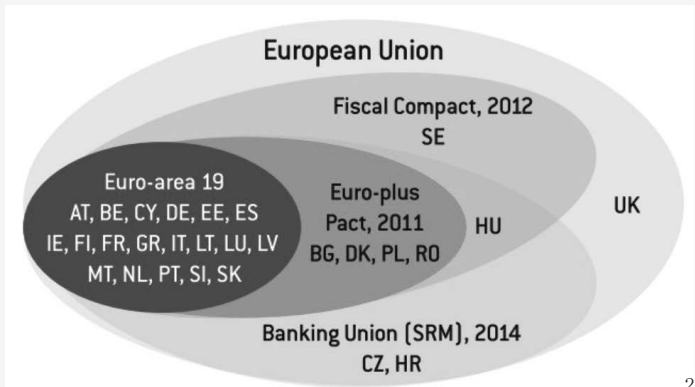


20

英国:「我関せず」

→「ヨーロッパの未曾有の危機」を前に手前勝手

Participation of euro and non-euro EU countries in intergovernmental arrangements to strengthen EMU

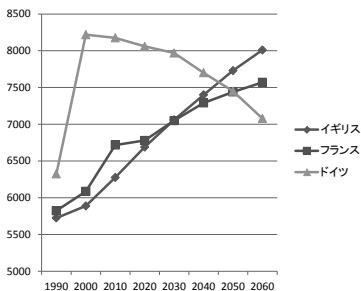


21

将来も明るいはず: 離脱願望 why?

米英は「普通の国」ではない: 「老いる世界」の中で: 鍵は移民

EU3大国の人口予想(単位: 万人)



経済好調・未来展望→離脱願望 why?

- 2月中旬までの世論調査: 残留/離脱が拮抗
- 60歳台以上層: 離脱願望→大国の思い出 (EU=独仏追随を拒否)
- 昨年春まで: 残留志向強い→難民流入・パリ同時テロの影響?
- アメリカ「トランプ現象」との共通性?→格差批判、反移民 [移民流入は繁栄のベースなのに]

[出所] E. Commission, 2015 Ageing Report

22

(3) 難民問題

シェンゲン協定：ヒトの自由移動を保証

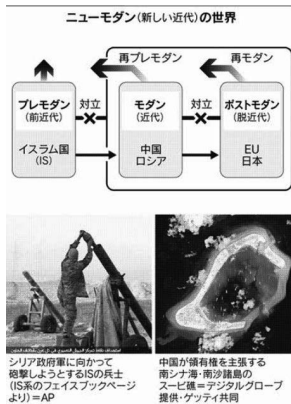
- ① 欧州統合の象徴＝ヒトの自由移動は「平和」と「安定」が前提→テロ、難民大量流入で揺らぐ。
- ② 国境検査をなくすシェンゲン協定：テロと難民・移民流入で一部に国境検査復活。
- ③ シェンゲン協定の見直し→物流コストの増大→EU経済に打撃。
- ④ 西北欧vs東欧（EU内部対立）→北欧諸国、オーストリアなども国境管理導入
- ⑤ 対ギリシャ、トルコ、シリア

シェンゲン協定加盟26カ国



23

21世紀初頭世界：新3分割新しい統合環境 プレモダン・モダン（ニューモダン）・ポストモダン



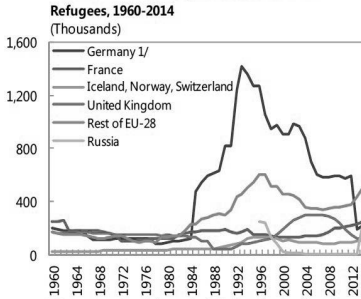
- EU＝ポストモダン・モデル
- 21世紀EU：中・東欧を10カ国以上加盟させた
→中・東欧諸国は(ニュー)モダンのレベル→「EUの理想が崩れかかっている」という議論
- <「ニューモダン」のモダン化>が世界を動かす
(後ろ向き：中国、ロシア)

[出所] 日本経済新聞08.12.2015

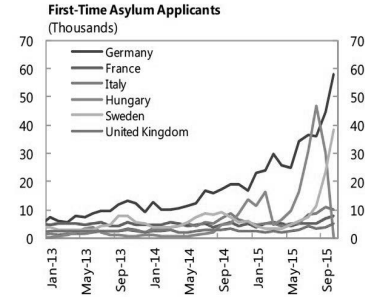
24

難民流入：過去の実績と今回

The number of refugees living in European countries now is still low compared to the 1990s



Within the EU, Hungary and Germany are receiving the bulk of the applications



Germany and Sweden are main destinations, and Italy, Greece, and Hungary are gateways

25

難民大量流入→EU諸国で極右台頭、反統合の動き加速

①テロと移民の流入→ナショナリズムに基づく排他主義の高まり→極右の台頭、民族主義など反統合の動きが加速。

②仏の極右政党「国民戦線」ル・ペン党首の存在感が増す。

③英国離脱の動き：格差社会化と並び、難民・移民大量流入・テロへの反発が作用。

④EU離脱を問う英国国民投票が2016年に早まり、英のEU離脱が現実味を帯びてくる。

仏ル・ペン国民戦線党首



26

3. 評価と展望

- 1. リーマン・ショックから「21世紀」が始まった
- -08年9月15日：リーマン破綻→グローバル金融危機→ユーロ危機→先進諸国長期経済停滞
- -小アメリカ主義：09年オバマ政権
- -4兆元景気対策（中国）→過剰生産、尖閣、南シナ海
- -EU：ユーロ危機、難民危機
- -ロシア：クリミア併合、ウクライナ紛争、シリア軍事介入

27

「21世紀」にリスボン条約は対応できない

- リスボン条約：20世紀統合モデル＋拡大→「21世紀」には機能不全
- 「21世紀」のユーロ危機：EU運営条約を乗り越えてユーロ危機ようやく沈静化：第125条→ESM、第123条(1)→OMT、第127条(5)→銀行同盟
- 新しい条約が必要：「ヨーロッパ合衆国」型でないと機能できない

28

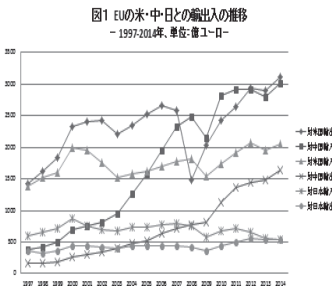
「3つのEU」(アンソニー＝ギデンズ)

- 「EU1」 EU首脳会議→欧州委員会→閣僚理事会(従来のEU統治機構)
- 「EU2」 メルケル+EU首脳(ドラギ総裁を含む)→「EUを動かしている」→ユーロ危機yes、難民危機では司令塔の役割を果たせていない
- 「紙のヨーロッパ」 欧州委員会やEU機関の将来展望文書・分析文書→実現能力をもたない

29

中国のヨーロッパへの影響増大 —GDP(購買力平価)で14年世界1位へ—

EUにとって: 中国は輸入1位、輸出3位



図表1: 米中逆転か、40カ国の世論調査

People Think China Will or Already Has Replaced U.S. as Superpower

Which comes closest to your view?



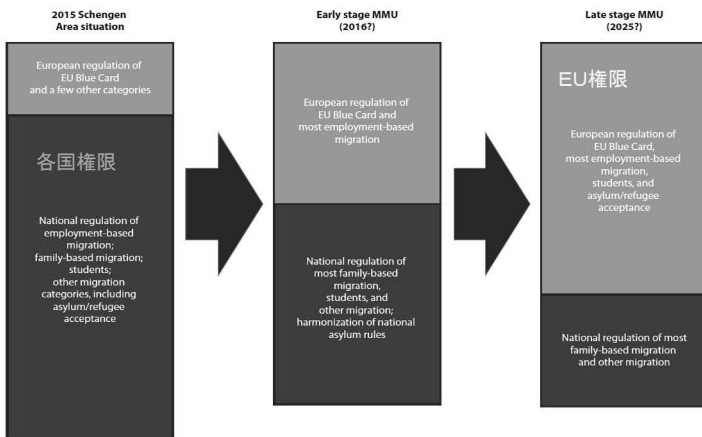
30

条約改正について

- →「ヨーロッパ合衆国型」EUへ踏み込むしかない
- アメリカがモデル
- 連邦型統治機構が「21世紀」EUにとってのモデル
- さしあたって…
- 「2025年までにユーロ圏財務省」(5 Presidents' Report, 2015)
- ユーロ圏財政移転機構
- 難民危機に対応できる対外国境警備・移民難民対応機構

31

EUの移民・移動同盟(MMU)形成へ：2025年？



32

「21世紀」ヨーロッパ問題を 解決できるのはEUだけ

- 究極的には「各国バラバラか」「EUか」「有志連合（先行統合）か」という選択になる。「バラバラ」は混乱を深めるということが時間とともに分かってくる。
- 難民問題の現状はEU各国バラバラに動き、国境管理の一時的導入へ→①解決へ至らず混乱が増す、②単一市場の物流コスト増大
- “More Europe”：共同の国境管理、共同の難民対応→米国の国境管理体制がモデルになる
- 少数国（西欧南欧）の「有志同盟」が一時的に先に進む方式もありうる